

## 巻頭言

OSTECジャーナル22号をここにお届けできて嬉しい。

生きるとは、ささやかでも何事か意義のあることをすることだ、ということも考えている。22号を編集し終えて、自分はいま確実に生きているのだと実感している。この充実感は何にもものにも代えがたい。

OSTECジャーナルはどうなっているのか、次号をぜひ出してほしい、などと言ってくださったかた、原稿を寄せてくださったかた、心配していただいたOBのかた、などに励まされてようやく発行にこぎつけることができた。

私はいま現代医学の進歩のおかげで、やっと生かされている、卒寿を二年も過ぎた老人である。しかし、OSTEC会員の皆さんの温かい励ましによって、人間らしく生きる意義を与えていただいたと思っている。心から感謝したい。

折から咲き誇る桜をながめながら、ことしの桜は特に美しいと、しみじみその魅力をかみしめている。皆さんどうも有難う。

2015年4月吉日

前川 太市